



# 山田幸男 没後 40 周年

日本藻類学会初代会長山田幸男は、1900 年(明治 33 年) 8 月 14 日、京都市に生まれ(旧姓山中)、4 歳の頃東京市に移り、1921 年(大正 10 年) 4 月に東京帝国大学理学部植物学科に入学した(中村 1962; 山田 1983)。奇しくも同年 3 月、北海道帝国大学を休職中の遠藤吉三郎が肺結核のために 46 歳の若さで逝去していたが、翌年、山田(山中)が植物学科分類学講座の教授早田文蔵に分類学専攻の希望を申し出ると、早田は遠藤の遺族から東大に寄贈されたばかりの夥しい標本と蔵書を示し「貴君はこれらを利用して海藻学の勉強をすることにしてはどうか」(山田 1979)と提案、さらには水産講習所教授岡村金太郎の指導を受けることを薦めた。岡村から直接、遠藤からも遺品を通して間接的に薫陶を受けることになった山田(山田 2007)は、以来 50 余年を藻学に捧げ、台湾産海藻からマリモ研究に至るまで 150 篇に及ぶ報文を発表し、数多の藻類研究者の養成に努めた。記載した新分類群は 200 近い(黒木 1977)。遠藤の後継者と目された山田は、岡村の後継者としても国内外の期待に応え、日本の藻学界を長く牽引したのであった。本年 7 月 6 日は山田が 1975 年(昭和 50 年)に逝去して 40 周年にあっていた。

1952 年(昭和 27 年)、山田を中心とする門弟・盟友によって設立された日本藻類学会は、今年 63 年目を迎えますますます発展を続ける。山田が歩いたあとの磯に海藻は

残っていないという伝説があるが、山田が藻学界に残した大きな足跡は、没後 40 年を経ていまなお明瞭である。

## 【略年譜】

- 1900 年 京都市に生まれる。  
1918 年(18 歳) 東京府立第一中学校卒業。第一高等学校に入学。  
1921 年(21 歳) 同校を卒業。東京帝国大学理学部植物学科に入学。  
1923 年(23 歳) 岡村金太郎(水産講習所)の指導を受け始める。  
1924 年(24 歳) 同大学を卒業し、同学部の副手を委嘱される。  
1928 年(28 歳) 米国カリフォルニア大学(Berkeley)に留学。  
1929 年(29 歳) 欧州(スウェーデン、イタリアなど)に留学。  
1930 年(30 歳) 北海道帝国大学助教授に任官。  
“Notes on some Japanese algae I.”  
1931 年(31 歳) 同教授。『藻類』(岩波講座)。  
1932 年(32 歳) 理学博士。  
1933 年(33 歳) 海藻研究所(室蘭市)を設立。同所長。  
1935 年(35 歳) 『分類植物学 上巻』(木村有香・本田正次と共著)。  
1944 年(44 歳) “Notes on some Japanese algae X.”  
1952 年(52 歳) 日本藻類学会設立。会長(1965 年まで)。  
1953 年(53 歳) 「サメズグサの正体」(『藻類』創刊号巻頭論文)。  
1961 年(61 歳) 国際藻類学会の設立に参画。  
1962 年(62 歳) 北海道大学理学部学部長に就任。  
1964 年(64 歳) 国際藻類学会会長(1966 年まで)。  
同大を定年退官。名誉教授。  
1975 年(74 歳) 7 月 6 日午後 8 時、骨髄腫のため逝去(享年 75)。  
(主に、黒木(1977)による。没年を除き、年齢は誕生日での満年齢)

## 引用文献

- 黒木宗尚 1977. 山田幸男先生の経歴と業績. 藻類 25(supl.): iii—viii.  
中村義輝 1962. 山田幸男先生の略歴と業績. 松浦一山田幸男両教授還暦記念論文集. 松浦一山田幸男両教授還暦記念論文集実行委. 札幌.  
山田家正 2007. ヴィジュアル生物学者小伝 (12) 海藻研究ひとすじ山田幸男先生. モーリー (17): 56—65.  
山田真弓 1983. 海藻学者山田幸男小伝. 採集と飼育 45(9): 406—408.  
山田幸男 1979. わが海藻研究五十年. 山田真弓. 240 pp.

(国立科学博物館 北山太樹)



1. 壮年(60 歳頃)の肖像。1962 年に配布された『松浦一山田幸男両教授還暦記念論文集』の巻頭より転載(国立科学博物館所蔵)
2. 若年(推定 30 代)の肖像。原典不明(国立科学博物館所蔵)
3. 1933 年(昭和 8 年) 5 月、岡村の訪問を記念して、北海道帝国大学理学部玄関前で撮影された集合写真。前列左より、岡村金太郎、山田幸男、後列左より田中剛、入野田泰夫、瀬川宗吉、秋山茂雄、稲垣貫一(山田真弓先生のご厚意により『わが海藻研究五十年』より転載)
4. コンブモドキ *Akkesiphycus lubricus* Yamada et Tanaka のタイプ標本(SAP 48433)。1939 年(昭和 14 年) 7 月 1 日に山田と田中剛が北海道厚岸アイカップで採集。1944 年に山田・田中が新種記載した(北海道大学理学部所蔵)
5. ヒロハアツバノリ *Sarcodia cuneifolia* Yamada のタイプ標本(TNS-AL-R 294)。1936 年(昭和 11 年) 8 月 3 日に昭和天皇が葉山御用邸近海で御採集。生物学御研究所から同定を依頼された山田が 1938 年に新種記載した(昭和記念筑波研究資料館所蔵)
6. 『分類植物学 上巻』(山田・木村・本田 1935)の扉。(筆者所蔵)